

■複合型コミュニティづくりを目指す“味噌をいちからつくるプロジェクト”■

有機・無農薬栽培で育てる大豆の種蒔き・堆肥の施肥を実施

大阪樟蔭女子大学(大阪府東大阪市) 学芸学部ライフプランニング学科の濱田信吾准教授の(フードスタディコース)3年生ゼミは、地域と協働で遊休地(耕作放棄地)の再活用と地域交流を目的とした「味噌作り」活動を行っています。6月26日(日)に畑に畝を立て、堆肥の施肥、大豆の種蒔きを行います。

本件のポイント

- ・「食」を通して、社会貢献を実施
- ・耕作放棄地の再活用に取り組み、地域活性化につなげる
- ・地域住民との協働で在来種の継承、食文化の継承を実践する

■自ら発案して地域とつながる

ライフプランニング学科フードスタディコースでは、「食」に関する知識とスキルと、「食」を通して社会貢献できる力を身につけ、さまざまな地域活動を行っています。濱田ゼミでは、食文化を学際的な視点で学びつつ、食に関する伝統知、諸問題、そして環境問題について学び、自ら考え、社会とつながる力を身につけています。3年生ゼミが取り組む“味噌をいちからつくるプロジェクト”は、奈良県生駒市西菜畑町自治会が生駒市の助成を受けて進める「※複合型コミュニティづくり」計画の一環として、耕作放棄地を活用した大豆作りと、収穫した大豆を使用した味噌作りに地域住民と協働で挑戦します。本学においても、地域のさまざまな世代との交流を深めながら、地域活性化の一助となることを目指します。※複合型コミュニティづくり：自治会単位で住民がサービスを作り出し、地域の課題解決に取り組む事業。生駒市の本事業は、総務省「ふるさとづくり大賞」を受賞するなど、全国的に注目を受ける市民力向上の取り組みです。

■いよいよ有機・無農薬栽培で育てる大豆の種蒔きを実施

5月にスタートした本プロジェクトは、JAS規格適応の圃場でもあった耕作放棄地を活用し、有機・無農薬栽培で栽培します。5月と6月中旬の2度の作業日に、西菜畑町の地域住民とともに草刈りを行い、約60坪の草刈りが完了しました。刈られた草は町内で集められ、3年後に堆肥として使用されます。

そして今回6月26日(日)に、畝立てをして、堆肥の施肥と大豆の種蒔きを行います。堆肥は3年前に刈った草や落ち葉などで、環境負荷の少ない自然堆肥を使用します。堆肥でふかふかにした土にJA奈良県推薦の品種「サチユタカ-A」大豆(白豆)の種を蒔きます。味噌作りのための大豆の栽培がいよいよ始まります。



約60坪の耕作放棄地



草刈り後の耕作放棄地



草刈りをするゼミ生

つきましては、ご多忙のところ恐縮ですが、ぜひ取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

<本リリースに関するお問合せ先>

学校法人樟蔭学園 学園広報課(担当:梶田・井上)

TEL: TEL:06-6723-8152(直通)(平日9時~17時) FAX:06-6723-8263

E-mail: gakuen-pr@osaka-shoin.ac.jp